



善循環の輪

北海道の集い in さっぽろ

# 進化するEM技術に世界が注目 「開発者・比嘉照夫教授講演」

期日 平成29年 **10月28日(土)** 12時30～17時45分

会場 **新さっぽろアークシティホテル**  
札幌市厚別区厚別中央2-5-6-2 (JR、地下鉄新さっぽろ駅直結)

**入場料無料**  
要申込み

### EMってご存知ですか？

ヨーグルトを作る乳酸菌や、みそ・しょう油を作る酵母菌や光合成細菌など私たちや動植物の健康に役立つ有用微生物群のことです。

### EMで作った肥料で農作物への利用

生ごみの有効利用・畜産・水の浄化・食品加工・造園・医療などあらゆる分野において世界中で使われています。

## プログラム

- 11:30 開場
- 12:30 開会 挨拶
- 12:50 **事例発表(道内3例)**
- 14:20 休憩
- 14:35 **事例発表(道内2例、道外1例)**
- 16:25 **比嘉照夫教授講演**
- 17:45 閉会
- 18:15 懇親会(会費5,000円)

## 事例発表内容

- 人と自然にやさしいEMクリーニング
- EM活用で合鴨飼育と有機農業
- EM活用の酪農経営(低温殺菌牛乳)
- 三笠市の生ごみ全量EM肥料化  
と有機農業の6次産業化
- EM自然農法歴25年
- 農薬を使用しない除草対策ほか

主催:認定NPO法人 地球環境共生ネットワーク NPO法人 北海道EM普及協会

参加申し込み先 NPO法人 北海道EM普及協会 TEL:011-898-9898 E-mail:info@em-hokkaido.org

**参加申込み書 FAX:011-898-9798**

御氏名 \_\_\_\_\_ 御連絡先 \_\_\_\_\_

御住所 \_\_\_\_\_

講演会      参 加      ・      不参加      懇親会      参 加      ・      不参加

# 第3回ユニバーサルビレッジ国際会議における マサチューセッツ工科大学 正木一郎博士の冒頭スピーチの一部

於 名古屋大学  
2016年  
10月6日~8日

## 「人類の危機をEMで克服」と明言

世界の人々の心を捉えている戦争か、事故か、テロによる核物質の大爆発が、人類と地球環境を壊滅させるという恐怖感を取り除くためにも、これらの問題にたいする唯一の解決策である比嘉博士の「微生物による元素転換」を科学的に立証する「新しい理論」を立てることに私は努めているところです。放射性物質を微生物によって元素転換することができるという「比嘉理論」に従えば、有害な放射性物質を無害な物質に変えることができますはず。さらに、2013年に、全地球生態系の破綻



写真/比嘉教授と正木博士

を抜本的に解決する目的で始めた「全地球生態の法則」も、比嘉博士や多くの友人の助けを得て、その全貌が明らかになりました。

●この国際会議の共催団体は、人類社会に有益な技術革新の前進に貢献する世界最大の専門家組織で、160 カ国以上に約 40 万人の会員がいる IEEE（アメリカ合衆国電気電子学会）、マサチューセッツ工科大学、北京航空航天大学、名古屋大学で構成されている。

正木一郎博士の略歴

早稲田大学卒。1994 年マサチューセッツ工科大学に招聘（しょうへい）。現在、同大 ITS 研究センター所長。上述の国際会議の創設者で、IEEE 副会長などを勤め、米国のみならず日本の官公庁、民間企業の顧問、コンサルタント等多数。

## 著書「自然が答えを持っている」

ノーベル物理学・医学賞の大村智（北里大学特別荣誉教授）が  
EM技術について人類の知恵と述べて評価

この本の中で、EM技術について、次のように述べている。

- 先般、書店で目に留まり買っておいた『微生物が文明を救う』（比嘉照夫・渡部昇一共著／クレスト社）を子供の頃の農業と今日の農業とを比較しながら、通勤の車中で一気に読み終えた。
- 化学肥料や農薬に頼る現在の一般的な農業に対して、微生物を利用するEM技術を導入するというものだ。化学肥料に頼る農業は土壌を疲弊させ、田んぼに埋められた糞は容易に土壌化しない。EM技術とは、そのような土壌をEMによって改良することで食料を増産させる技術であり、また、もともとやせている土地を改善することも可能だ、EM技術は食料を増産させる技術である。
- 我々が子供の頃は、このEM技術の原形とも言うべき堆肥作りを手伝った。山から木の葉をかき集め、糞を集めて下肥を撒き、微生物を繁殖させて（発酵させて）作ったものだ。これを利用すれば、土壌を絶えず生きた形で使うことができる。この原理を応用し、いわば堆肥作りを効果的に行うために役立つ微生物を混ぜたものが、EMである。
- 化学肥料を作るには膨大なエネルギーを必要とする。そのことは巡りめぐって環境破壊の元凶にもなる。
- 一農学者によって、化学肥料を使う以前の農業の中にあった人類の知恵が歴史から抜け出し、再び役立とうとしているのである。

